

目次

ごあいさつ

目次／コラム

例言

「川中島合戦図屏風」の世界

— 作品の概要と研究課題 — (高橋 修) …… 5

武田信玄の自筆文書を読む (鴨川達夫) …… 12

上杉謙信 …… 17

いくさ …… 19

こころえ …… 40

祈り …… 50

武田信玄 …… 61

いくさ …… 63

こころえ …… 92

祈り …… 98

川中島の戦い …… 107

資料解説 …… 123

展示資料目録 …… 146

主な参考文献 …… 154

協力者一覧 …… 155

写真提供者一覧 …… 155

コラム

千曲川の流れと川中島の戦い …… 23

尼巖城と海津城 …… 39

真田家と武田家 …… 45

戦と民 …… 49

戦と寺—禁制きんせいの意味するもの— …… 53

善光寺如来と謙信・信玄 …… 59

川中島合戦と一向一揆 …… 69

山本勘助の墓と伝承 …… 73

阿弥陀堂と渡し場 …… 79

「川中島の戦い」はいつ行われたか? …… 85

さまざまな一騎打ち …… 89

「川中島の戦い」を伝える …… 99

「川中島の戦い」の伝承 …… 103

例言

1 本書は第一期平成十六年四月二十九日から六月十三日、第二期七月二十五日から九月五日までを会期とする松代城整備完成記念特別展「川中島の戦い—いくさ・こころえ・祈り—」の展示図録である。

2 本展は長野市立博物館と真田宝物館との共同企画開催である。

3 図版は展示資料の一部であり、図録掲載と展示の順序は一致しない。

4 展示資料は会期中に一部展示替えを行う。

5 図版に付した番号は、図録に限っての番号であり、資料番号は資料名のあとにへつつけた。

6 指定文化財の名称は基本的に指定名称によった。国宝は◎、重要文化財は○、重要美術品は◇、県指定文化財は◆、市町村指定文化財は△で示した。

7 展示品が複製品の場合でも、本図録では原資料の写真を使用した。

8 巻頭論文「川中島合戦図屏風」の世界」は高橋修氏(茨城大学助教授)、「武田信玄の自筆文書を読む」は鴨川達夫氏(東京大学史料編纂所助教授)にご執筆いただいた。また、展示企画、資料収集、写真撮影などにかかわり、多くの機関並びに個人に援助を賜った。巻末に記し、感謝の意を表する。

9 本文中の敬称は略させていただいた。

10 本書に掲載した写真は各所蔵者、出版社、印刷会社より提供していただいた。巻末に記し、感謝の意を表する。

11 本展示の企画・構成および執筆・編集は降幡浩樹、山口 明、細井雄次郎、原田和彦が担当した。

長野市松代町は真田一〇万石の城下町でした。その松代藩主の居城であったのが松代城です。「川中島の戦い」の頃、甲斐の武田信玄が北信濃をおさえる拠点として築いた海津城が前身です。

国史跡である松代城の整備が今春に完成したのを記念して、戦国時代の海津城築城前後に焦点をあわせ、上杉謙信と武田信玄が相まみえた「川中島の戦い」を展示テーマに取り上げました。

「川中島の戦い」は史実ではありませんが、戦いの実像が明らかでないため、江戸時代以降謙信と信玄の一騎打ちなど、さまざまな虚構を生んできました。

今回の展示では、戦国の乱世に生きた「上杉謙信と武田信玄」、「信濃の土豪と領民」を軸に、これまでのイメージと異なる合戦像を描くことを主眼としています。「いくさ」に明け暮れた日々、武士の「ころえ」、神や仏への「祈り」、この三つを展示の柱として全体構成しました。

松代城整備を契機としたエコール・ド・まつしろ事業に今回の特別展が多少なりとも寄与するところがあれば望外の喜びです。

特別展を開催するにあたり、貴重な文化財を快くご出品いただきました所蔵者の皆様をはじめ、多大なご協力、ご指導を賜りました関係各位に対し、厚くお礼申し上げます。

平成十六年四月